

第三百九十九回 青葉会

令和元年七月二十五日（木）午後一時半～四時半 文京区民センター会議室

〈選者〉

〈出席者〉

〈投句〉

〈紙上選句〉

- ◎ 川口孤舟
- 今井紀久男 大林猛 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太（午後三時頃）
- 豊田ゆたか 中野一灯 山内天牛
- 伊賀山そらお 荻原宏信（新人） 小早健介 在間千恵 朱牟田恵洲 土谷堂哉
- 古田昇 星田啓子 宮内規雄 山崎亜也 山田けい子 渡邊盛雄
- 赤田堅 安部眞希子 楠田彦十 小西弘子 重枝孝岳（新人） 庄司龍平
- 高橋敏郎 早川允章 村田くに子 山本三恵

《互選句》

七点

六点

四点

三点

二点

- ◎ ざりがにの己が濁りに紛れ入る 孤舟（五・孝・敏・ゆ・灯・允・天）
- ◎ ジャズライブパーボン叩る暑氣払 紀久男（堅・孤・龍・ゆ・灯・允）
- ◎ 熱帯魚に一部始終を見られけり 孤舟（忠・灯・天・三）
- ◎ 腕白を釘付けにして兜虫 全（眞・五・弘・天）
- ◎ 帰省子のやつと二晩親孝行 堂哉（堅・眞・忠・弘）
- ◎ ふるさとの潮の香りやみかん咲く ゆたか（孤・孝・灯・允）
- ◎ 汽笛もて船すれ違ふ海霧（じり）海峡 一灯（孤・弘・ゆ・允）
- ◎ （上五・中七）「すれ違ふ汽笛尾を引く」 昇（忠・孤・彦・允）
- ◎ サングラスかけジキルにもハイドにも 盛雄（猛・五・孝・く）
- ◎ 父と子の描く大（おお）文字夏座敷 そらお（忠・孤・孝）
- ◎ 蚊を打ちて指手（まじ）決めてたる団扇かな
- （縁台将棋。季重なり）
- 老々のテニス尚善し梅雨晴間 宏信（紀・龍・く）
- 扇子閉ぢ友は一句出来たやふ 忠彦（紀・龍・三）
- 梅雨寒し売れぬ芸人落ちる闇 全（紀・五・龍）
- 全（孤・く・三）
- ◎ 老鷲を聴く山寺の奥座敷 健介（紀・猛・孤）
- ◎ 鳴き始む蟬は温度計持つのかも
- ◎ 擦れ違ふ浴衣美人の中国語 恵洲（眞・孤・ゆ）
- ◎ 遠き日の五右衛門風呂や大夕焼 堂哉（孤・敏・灯）
- ◎ 緑濃き山の出湯にきく瀬音 ゆたか（猛・孤・灯）
- ◎ （◎…下五の「きく」は不要）
- ◎ 仰ぎみる岩山切り取る夏の空 全（猛・孝・敏）
- ◎ 漁り火を遠く夜釣の煙草の火 一灯（堅・ゆ・く）
- ◎ 綺羅星の天体ショーや夏航路 昇（孤・龍・敏）
- ◎ 花生けの露草白き根を張れり 啓子（紀・彦・弘）
- ◎ 蛇見し日平穩無事を訝しむ 亜也（紀・五・三）
- ◎ 代々の漆の椀に鱧踊る けい子（堅・眞・猛）
- ◎ 暑き日や下田の街は金目鯛 猛（彦・天）
- ◎ 夏空を取り込み漬かる露天風呂 全（堅・紀）
- ◎ 名画座のグレースケリー梅雨深し 孤舟（彦・弘）
- ◎ 若鮎の泳ぐ姿や回復期 五郎太（紀・忠）

黙々と梅干作る妻の背(せせ)
二輛電車植田の先を横切れり
湯宿の空自由自在に夏燕
峰雲へ快音残しテイーショット

健介(真・く)
千恵(彦・天)
全(堅・敏)
一灯(紀・弘)

(高一のお孫さん)

明易や一度括りし古書解く
真清水のさ走る沢辺ザツク解く
萎(を)えし身の蘇るとき昼寝覚
暗闇で夏掛け探る寝床かな
海老蔵の汗の奮闘空回り

全(紀・彦)
全(真・猛)
盛雄(紀・忠)
そらお(三)
紀久男(忠)

(過労で初めて休演：やり過ぎです)

明日手術(オ)と乱れし友の梅雨見舞
あらうれし鱧も胡瓜も冷酒も
合歓の花グリーンを外しこぼれけり
ラフ深く真摯に打てり梅雨晴間
梅雨曇り星空ツアーに行く娘
夏祭踊りの締は「好きな人」

全(忠)
猛(龍)
宏信(紀)
全(紀)
忠彦(紀)
五郎太(三)
恵洲(天)

両国や鬻に浴衣の男ぶり
女子会の意気軒昂や生ビール
司馬遼と街道談義昼寝覚

全(允)
堂哉(敏)

三代代テニスに興じ夏の空
孫と酌む今宵は笹(ささ)の冷奴

ゆたか(紀)
全(紀)

長雨もよろしからずや薔薇根付く
無風なり梅雨の晴れ間に鳥騒ぐ
優しきは妻の手による団扇風

啓子(紀)
全(忠)
規雄(孝)

団扇もてあふがむ妻の風やさし
鮎鮎や荒れる川面をながめつつ
梅雨寒や膠原病を疑はる

全(紀)
けい子(紀)
天牛(五)

昼食は冷し索麵小さき客
梶子(くちなし)の花さく館落語会
ぶちかます力士の矜持夏惜しむ

全(く)
全(紀)
盛雄(紀)

* * * * *

●次回青葉会

☆第四百回記念句会

八月二十二日(木)

歌舞伎座第一部見物 十一時〜十四時

全 「花籠」にて祝宴&句会十四時〜十六時

ゲスト 巳之助、大谷真為(鈴木真砂女の孫)ら三名

十六名参加予定

▲当季雑詠各自三句 投句は二句

九月二十六日(木)

午後一時半〜四時半

文京区民センター会議室

以上 文責 紀久男

令和元年八月八日